








インフォメーション・コーナー







会 告

平成 20 年度農業農村工学会大会講演会の開催について（第 1 報） 	66
平成 19 年度第 10 回中央講習会について（第 1 報）	
農業・農村分野の新たな展開方向 環境・資源・生態系の保全・創出とその課題 	66
第 24 回水士技術セミナー「機能保全における性能設計入門」開催について（第 1 報） 	66
学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集！！	67
「農業農村工学会学術基金」の募金について.....	67
農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてお願い.....	68
国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のご願いと国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について.....	68
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のごお願いと編集事務局（投稿先）のお知らせ.....	69
農業農村工学会誌への投稿お待ちしております！.....	69
身近にある水利遺構で表紙を飾ろう！！「水士の知（農業農村工学会誌）」	
平成 21 秋期～冬季の表紙写真の募集	71
北海道支部講習会の開催について（第 1 報） 	71
第 31 回関東支部地方講習会および平成 19 年度支部研修会の開催について 	72
第 45 回材料施工研究部会シンポジウムの開催について（第 2 報） 	72
平成 19 年度京都支部地方講習会・支部研修会の開催について（第 1 報） 	73
第 57 回理論応用力学講演会の開催について	73
農業農村工学会論文集第 252 号内容紹介.....	74
学会記事	77

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちいたしております。

 のマークは、農業土木技術者継続教育認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成 19 年 12 月 15 日	農業水利研究部会	平成 19 年度農業水利研究部会 	外来生物と農業水利	東京都	75 巻 11 号
平成 20 年 1 月 31 日	北海道支部	地方講習会 		札幌市	75 巻 12 号
平成 20 年 2 月 1 日	材料施工研究部会	第 45 回材料施工研究部会シンポジウム 	材料施工分野における GIS 利用の現状と展望	高知県	75 巻 11 号
平成 20 年 1 月 31 日	関東支部	第 31 回地方講習会  平成 19 年度支部研修会	「農業水利施設の機能保全の手引き」について、他水田魚道の選定と設計・施工方法	宇都宮市	75 巻 12 号
平成 20 年 2 月 14、15 日	京都支部	平成 19 年度地方講習会  支部研修会	農業水利施設のストックマネジメント（予定）	名古屋市	75 巻 12 号
平成 20 年 6 月 10～12 日		第 57 回理論応用力学講演会		東京都	75 巻 12 号
平成 20 年 8 月 26～28 日	大会運営委員会	平成 20 年度農業農村工学会大会講演会 		秋田市	75 巻 12 号

第 76 巻 1 号予定

展望：農業農村政策の転換と農業農村工学会の発展戦略：三野 徹

小特集：農業水利施設の大規模地震対策への取組み（ ）

大規模地震による農業用水路の被害実態に基づく耐震性評価に関する考察：森 丈久
 水資源機構における大規模地震対策への取組み：細井 和夫
 大規模ため池の大規模地震における性能目標と耐震検討事例について：谷 茂
 土地改良施設耐震対策について：中野 千治

技術レポート

北海道支部：寒冷少雪地域における自生種植生による切土法面緑化：福田 尚人他
 東北支部：ほ場整備後の農家独自工法による乾田直播地下灌漑システム：古川 達也他
 関東支部：温水ため池による灌漑水温上昇と水稻の生産効果：小倉 隆宏
 京都支部：豪雨によるため池決壊予測と被害の未然防止について：谷原 達明
 中国四国支部：地下水位制御技術を活用した水稻不耕起乾田直播栽培：藤井 昌英他
 九州支部：橋脚大口径深礎工の設計施工概要：吉田 好弘

小講座：地震動予測地図：井上 敬資

私のビジョン：環境問題から考える：近藤佐知子

平成20年度農業農村工学会大会講演会の開催について(第1報)

大会運営委員会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



平成20年度農業農村工学会大会講演会は、秋田県秋田市の秋田県立大学秋田キャンパスにおいて平成20年8月26日～29日に開催を予定しています。なお、発表の投稿要項、参加申込み方法など、詳細は続報でお知らせ致します。

1. 開催期日 平成20年8月26日(火)～29日(金)

2. 主会場 秋田県立大学秋田キャンパス

〒010 0195 秋田市下新城野字街道端西241-438

・秋田空港から車で約1時間 ・秋田駅から車で約30分

・秋田駅から追分駅までJRで約15分、追分駅から徒歩20分

3. 講演会 平成20年8月26日(火)～29日(木)

4. 交流会 平成20年8月26日(火)

5. 現地研修会 平成20年8月29日(金)

なお、会場に専門のボランティアによる「託児室」を開設します。是非お子様連れ、ご家族で大会にご参加下さい。

平成19年度第10回中央講習会について(第1報)

農業・農村分野の新たな展開方向 環境・資源・生態系の保全・創出とその課題

行事企画委員会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



平成19年度中央講習会は、昨年度に引き続き「農業・農村分野の新たな展開方向・環境・資源・生態系の保全・創出とその課題」をテーマとし、本年度の各支部大会報告の中から、特に評価が高く、全国的なモデルになり得る地域の新たな取り組みについて、最新の情報を発表いたします。事例発表後に会場と発表者全員で意見交換を行います。奮ってご参加下さい。

記

1. 主催 農業農村工学会行事企画委員会

2. 期日 平成20年2月13日(水)10:00～17:00

3. 場所 東京大学 弥生講堂 一条ホール
東京都文京区弥生1-1-1(東京大学内)
<http://www.a.u-tokyo.ac.jp/yayoi/>

4. プログラム(予定)

開会挨拶 行事企画委員長

10:10～11:20 基調講演 農業・農村分野の展開方向(予定)

11:20～12:00 講演 各支部からの報告

13:00～13:40 講演 "

13:40～14:20 講演 "

14:30～15:10 講演 "

15:10～15:50 講演 "

15:50～16:30 講演 "

16:30～17:00 意見交換

5. 参加費 未定

6. 申込・問合せ先

参加申込書は学会HP(<http://www.jsidre.or.jp>)からダウンロードしてご利用下さい。

問合せ先 〒105 0004 港区新橋5-34-4

(社)農業農村工学会行事企画委員会

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

第24回水土技術セミナー「機能保全における性能設計入門」開催について(第1報)

水土技術セミナー実行委員会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



世界貿易機関(WTO)加盟国は、技術基準の策定に当たっては国際規格を優先し、性能を基準とすることが規定されています。このため、農業農村整備事業における水利構造物の設計法においても、これまでの仕様規定型から性能照査型に移行します。これに合わせ、農林水産省でも土地改良事業に関する設計基準類を性能規定化すべく作業が進められています。

そこで「性能設計」をキーワードに捉え、若い技術者を対象として、性能設計の経緯と現状、設計手法の理論的根拠となる信頼性設計法、そして実設計を担う限界状態設計法と耐久性設計につ

いての解説と要求性能を実現するための施設管理を行ううえで必要な、維持管理、機能保全、劣化と機能の診断、さらには施工や補修・補強にあたっての考え方、および性能発注のあり方と問題点について専門家に講義していただくセミナーを企画しました。

性能設計への移行は単なる設計基準の改訂にとどまらず、性能規定化・国民への説明責任・ライフサイクルコスト・ストックマネジメントなど、技術者として新たな対応を求められています。このため、移行のための作業が進行中ながら、少しでも早くの対応が必要と考えられることから、ここに本セミナーを企画しまし

た。ふるってのご参加をお待ちしております。

記

1. 日 時 平成 20 年 2 月 21 日 (木) ~ 22 日 (金)

2. 会 場 農業土木会館 6 F 会議室
(東京都港区新橋 5 - 34 - 4 503 - 3436 - 3418)

3. 定 員 50 名程度

4. 内 容

性能設計の基本的考え方を理解し、水利構造物の性能設計、特に限界状態設計法、維持管理、機能保全、劣化と機能の診断問題などを講義を通じて理解する。

5. 講 師 (交渉中)

6. プログラム (予定)

- 性能設計の現状
- 信頼性の照査
- 安全性の照査

使用性の照査

耐久性の照査

機能保全

施工および補修・補強

性能設計の実際

7. 受講費 会員：20,000 円 非会員：25,000 円

8. 募集締切 平成 20 年 2 月 1 日 (金)

9. 申込方法

学会 HP (<http://www.jsidre.or.jp>) の行事参加申込書をご利用下さい。

10. 申込先

〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4

(社) 農業農村工学会水土技術セミナー実行委員会担当宛

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!
行事企画委員会
農業土木技術者継続教育機構通信教育部会

通信教育を平成 18 年 11 月より本格実施しております。学会誌購読による自己学習で最大年間 10 CPD、また、通信教育で最大年間 18 CPD 取得できますので、是非、通信教育にご参加下さい。

1. 参加会員の募集

参加をご希望の学会会員で、かつ CPD 機構会員の方は、農業農村工学会のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) にある参加申込書に必要事項を記載してメール (E mail : cpd@cpd.jsidre.or.jp) あるいは FAX (03 5777 2099) でお送り下さい。

なお、この機会に農業農村工学会、継続教育機構への入会を希望される方は、同様にホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>) に申込様式がありますので、ご記入の上お申し込み下さい。

2. 申込期限

参加は、いつからでも可能です。

3. 事務局

機構の評価委員会内部に設置する部会および機構事務局が担当します。(☎03 5777 2098)

4. 内 容

問題は 3 カ月前の学会誌の報文等から、機構通信教育部会が作成し掲載します。

問題は択一式で、毎回 10 問出題します。報文の事実的内容から作成し、回答はメールで機構に返信していただきます。

採点の結果、7 割以上正解で 1 CPD、満点で 1.5 CPD が取得でき、機構会員の継続教育記録に自動的に登録されます。

解答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

5. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です。

「農業農村工学会学術基金」の募金について

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本の農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流

の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成 3 年 4 月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成 18 年度までに 43 件の

実績をあげています。

個人会員一口 5,000円(何口でも可)

法人会員一口 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058 口座名(社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140 2 54031 加入者名 農業農村工学会学術基金

農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地に発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、「農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害」、「学術の見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーを希望される方は事前に登録の申請をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿(2年毎更新)に記載して、緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は、以下

のとおりです。

調査団の候補者は、高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。

派遣する調査団員は、候補者名簿の中から選定する。

調査団の派遣期間は、原則2~3日とする。

調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算する(年度予算限度額300万円)。

調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。

調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局 FAX 03 3435 8494, E-mail saigai@jsidre.or.jp までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)よりダウンロードして下さい。多数の応募をお待ちしております。

なお、登録頂いた個人情報、災害対応調査にのみ活用し、適切に取り扱います。

国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

国際水田・水環境工学会(International Society of Paddy and Water Environment Engineering:PAWEES)は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊し、2007年12月末にはVol 5, No 4が発刊予定です。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

たくさんの方が国際学会へ入会されることを望みます。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水(排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生, 陸生動物植物の生態系)
- ⑦ 地域計画(農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム(水田農業と水環境, 土壌環境, 気象

環境)

⑨ 水田の多目的利用(田畑転換, 施設園芸)

⑩ 農業政策(農村振興, 条件不利地の支援策など)

水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として, 皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと, 会員には国際ジャーナルが, 年4回無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag 社(ドイツ)

発刊スケジュール: 2003年3月創刊, 以後3カ月ごと

国際学会会費: 正会員 12,000円/年/4冊(送料等学会負担)

学生会員(院生含む) 8,500円/年/4冊(送料等学会負担)

申込先: 農業農村工学会編集出版部 馬目宛

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

入会のお申込は, 学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>)の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ, メールまたはFAXでお申し込みいただけます。

**国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと
編集事務局（投稿先）のお知らせ**

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering）は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2007年12月末にはVol 5, No 4が発刊予定です。

わが国においても学術誌の評価に、SCI（Science Citation Index）のIF（Impact Factor）が利用されており、本国際ジャーナルでもIFの取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界13カ国からEditor（14名）を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer Verlag社からの刊行です。

掲載論文は、Review、Article、Technical ReportおよびShort Communicationの4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI獲得のために年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りますが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

投稿先：PWE Chief Managing Editor, Dr. Soon-Jin HWANG

International Society of Paddy and Water Environment Engineering (PAWEES)

KOFST - Main Building # 205

635-4 Yeoksam-Dong, Kangnam-Gu, Seoul 135-703, Korea.

Tel : +82 2 562 3627, 562 3613 Fax : +82 2 565 6821

Email : sjhwang@konkuk.ac.kr, pawees@ksae.re.kr (will be made shortly)

(During Jan.2006 to Dec.2008)

編集方針：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等 である。

編集体制 2006 .1 .1 ~ 2008 .12 .31)

• Editor in Chief : Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)

Former Professor, Kyushu University, Japan

• Editors 13カ国から14名

• Editing Board 32名

• Managing Editors

Chief Managing Editor : Dr. Soon-Jin HWANG

Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea

Dr. Yutaka MATSUNO

Faculty of Agriculture, Kinki University, Nara, Japan

Dr. Masaru MIZOGUCHI

Department of Global Agricultural Science, University of Tokyo, Tokyo, Japan

Prof. Dr. Tsugihiko WATANABE

Research Institute for Humanity and Nature (RIHN), Kyoto, Japan

Prof. Dr. Ke-Sheng CHENG

Department of Bioenvironmental System Engineering, National, Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

出版社：Springer Verlag社（ドイツ）

投稿資格：筆者全員が国際学会員であること。

投稿要領等：http://www.jsidre.or.jp に詳細を記載しています。

農業農村工学会誌への投稿お待ちしております！

学会誌編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。現在、掲載待ちの報文はなくなり、閲読が終了すれば、早期に掲載できる状況となりました。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ

に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」、「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌 76 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4 判 1 500 字以内)	原 稿 締 切 (刷 り 上 げ 4 ページ 厳 守)
76 巻 3 号 基幹水利施設のストックマネジメント(仮)	公募終了	
4 号 学会名称変更関連	公募なし	
5 号 耕作放棄地の解消と再発防止(仮)	公募終了	平成 20 年 1 月 15 日
6 号 大会関連	公募なし	
7 号 農業農村整備事業における環境配慮の取組み事例(仮)	平成 20 年 1 月 25 日	平成 20 年 3 月 14 日
8 号 電磁波計測技術の農業・農村工学分野への活用(仮)	平成 20 年 2 月 25 日	平成 20 年 4 月 15 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、**刷り上り 4 ページ**となっておりますので、ご執筆の際には**厳守**いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4 (社)農業農村工学会 学会誌編集委員会あて

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494 E mail : henshu@jsidre.or.jp

「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の薦める本」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の薦める本」を設け、随時募集しております。多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするとともに、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと考えております。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

オフィス便りは、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」、「技術者継続教育」・「技術

力の向上」・「技術者倫理」など。

キャンパス便りは、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるものを募集しています。奮ってご投稿下さい。

原稿の長さは、**刷り上がり 1 ページ**(1,800 字程度)で、写真を 1~2 枚程度入れて下さい。

私の薦める本は、原稿の長さが写真・体裁等含む刷り上がり 1 ページ以内(1,200 字)で、原稿には表紙の写真を含めて下さい。

76 巻 7 号テーマ「農業農村整備事業における環境配慮の取組み事例」(仮)

平成 13 年の土地改良法改正によって、農業農村整備事業では環境との調和への配慮が事業実施の原則とされています。これを受けて、食料・農業・農村政策審議会に設けられた農村振興分科会・農業農村整備部会・技術小委員会において、「環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の手引き」の検討が行われました。この結果、「第 1 編：基本的な考え方、水路整備」(平成 13 年)、「第 2 編：ため池整備、農道整備」(平成 14 年)、「第 3 編：ほ場整備(水田・畑)」(平成 15 年)として、工種別に環境配慮に対する基本的な考え方と留意事項がまとめられ公表されています。さらに、工種横断的に環境配慮の手法や工法をより具体化した「環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の技術指針」(H18)が策定されています。このような環境に配慮した農業農村整備事業は、たとえば、平成 19 年 6 月 24 日号の朝日

新聞において『環境ルネサンス』「環境に配慮した農地の整備」として取り上げられ、社会的にも高い評価が得られつつあります。

本誌では、「手引き第 2 編」の公表後、「環境との調和に配慮した計画・設計の現状」という小特集(Vol.71/No.11, 2003)が組まれ、環境への配慮を実現する場合に生じる現実問題を論じる報文が掲載されました。また現在、環境配慮の対策や手法について具体的な知識・情報を伝える講座「生態系配慮の基礎知識」が連続掲載されているところです。事業の推進に難しさがあるとはいえ、手引きの公表から数年が経過しており、地域の考えと特性を生かした特徴ある環境に配慮した事業が全国で展開されていると思われます。そこで、農業農村整備事業における環境配慮の取組みの内容について、内在する諸問題とその解決策あるいは将来展望なども含んだ報文を広く募集いたします。

76 巻 8 号テーマ「電磁波計測技術の農業・農村工学分野への活用」(仮)

近年の情報技術等の進歩により、電磁波を用いた計測技術が飛躍的な革新と普及を遂げ、あらゆる分野への応用が行われています。

農業農村工学分野においても、電磁波レーダ法はコンクリート、埋設管路等の構造物非破壊診断技術として活用されています。また地中レーダ等の電磁波を用いた地盤計測法は地中埋設物検

知から地質構造調査、土壌水分動態把握まで幅広く活用されています。

一方、昨年秋に一般的な利用が開始された陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS, Advanced Land Observing Satellite)に搭載された合成開口レーダは、農村地域の災害監視や作物生育状況監視等

への活用が期待されております。

本特集号では、このような電磁波を用いた調査計測技術の農業

および農業農村工学分野における応用について、適用事例、技術動向、展望等に関する報文を募集いたします。

身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!
「水土の知（農業農村工学会誌）」平成21年秋季～冬季の表紙写真の募集

学会誌編集委員会では、平成21年も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。

趣 旨

わが国は急峻な地形であることや水田稲作が発達したことに起因して、水を制する、水を利用するための土木的施設が数多く造られてきました。それら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、今も過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人々の生活を支えています。また、それぞれの機能を発揮するとともに、年月を重ねることでその地域の自然や文化にとけ込み、その景観を構成する要素として不可欠なものもあります。それが国家規模のプロジェクトで建設されたものでなくとも、私たちが調査・研究・事業の対象としている農村地域にも、規模の違いこそあれ立派に機能美と景観美を放つものが存在します。

農業・農村の現場で活躍される皆さま、日頃何気なく見過ごしているかもしれない水利遺構とそれを含み景観の美しさを再評価いただいて、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録いただき、広く学会員にご紹介下さい。特に今回は、少しずつ初冬の兆しを感じられるこの時期に、「秋から冬」が感じられる「水利遺構」の写真を募集いたします。

記

1. テーマ

「水利遺構：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」(昨年と同様)

2. 対象巻号

学会誌第77巻(平成21年1～12月号)のうち、特に秋季～冬季のもの

3. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで(デジタルカメラの場合はJPEG ファインモードまたはTIFFモードに設定)撮影してください。入選の際にはデジタルデータをお送りいただく場合があります。組写真の場合は、その旨明記して下さい。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 平成20年3月30日(秋季～冬季の写真)

6. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。ご注意ください。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、水利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれる(花などの情緒物に埋没しない)、デジタル画像の場合で解像度が不十分で表紙に拡大してドット崩れしない、ことが採用の条件となります。

北海道支部講習会の開催について(第1報)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 日時 平成20年1月31日(木) 9:30～16:30(予定)

2. 会場 札幌市・北海道大学学术交流会館
(札幌市北区北8条西5丁目・北大正門すぐ)

3. プログラム

- 1) 設計基準の改定について
 - ・土地改良事業計画設計基準・計画「ほ場整備(畑)」改定の解説
 - ・「景観」と「水質」への配慮に係わる計画基準の一部改定について
(「ほ場整備(水田)」,「ほ場整備(畑)」,「農道」)
農林水産省農村振興局 企画部 資源課 計画基準班
- 2) 「農業農村整備事業における景観配慮の手引き」の解説
農林水産省農村振興局 企画部 事業計画課 環境計画班
- 3) 「農業水利施設の機能保全の手引き」について
農業水利施設のストックマネジメント

農林水産省農村振興局 整備部 水利整備課 施設管理室

- 4) 「農業用ダム機能診断マニュアル」の解説
農林水産省農村振興局 整備部 設計課 設計審査班
- 5) 土地改良事業の新たな費用対効果分析について(ポイント)
農林水産省農村振興局 企画部 事業計画課

4. 参加申込・問合せ先

氏名・所属・会員/非会員を明記の上、メールまたはFAXにてお申し込み下さい。申込の締切は1月21日(月)です。
〒060 8589 北海道大学大学院農学研究院内
農業農村工学会北海道支部事務局
担当: 柏木淳一 E-mail: kashi@env.agr.hokudai.ac.jp
☎011 706 3641 FAX 011 706 2494

5. 参加費

会員 3,000円, 非会員 4,000円

第31回関東支部地方講習会および平成19年度支部研修会の開催について

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. テーマ

(1) 地方講習会（予定）

- 「農業水利施設の機能保全の手引き」について
「土地改良事業の新たな費用対効果分析」について

(2) 支部研修会

水田魚道の選定と設計・施工方法

2. 開催日時および場所

(1) 日 時

平成20年1月31日（木）10:00～16:30
（受付9:30～10:00）

(2) 場 所

とちぎ福祉プラザ 多目的ホール
〒320 8508 宇都宮市若草1 10 6
☎028 621 2940

(3) 定 員 300名（駐車場あり）

3. プログラム

9:30～10:00 受付
10:00～10:10 開会あいさつ

【地方講習会】

10:10～11:10 講師 未定
「農業水利施設の機能保全の手引き」について
11:10～12:10 講師 未定
「土地改良事業の新たな費用対効果分析」について
12:10～13:00 昼 食

【支部研修会】

13:10～13:50 講師 水谷 正一（宇都宮大学）
水田魚道の役割と選定方法について
13:50～14:30 講師 鈴木 正貴（福井県土連）
千鳥X型魚道の設計理論
14:30～15:10 講師 中茎 元一（栃木県職員）
水田直結型可動式魚道の施工について
15:10～15:25 休 憩
15:25～16:05 講師 三塚 牧夫（宮城県職員）

水路のり面に埋設する魚道の施工について

16:05～16:25 全体質疑および意見交換

16:25～16:30 閉会あいさつ

4. 参加費用 参加費：4,000円 昼食代：1,000円

5. 申込方法

(1) 申込書 所定の申込様式により、所属機関ごと一括してお申込み下さい。

(2) 申込締切日 平成19年12月21日（金）まで

(3) 振込先 申し込みと同時に参加費用を全額次の銀行口座まで振り込んで下さい。なお、申し込み後の取り消しには応じかねますので、代理の方の出席をお願いいたします。

銀行名：足利銀行 県庁内支店 普通 3265560

口座名：農業農村工学会地方講習会

事務局長 八木沢 英一

（振り込み手数料については、申込人負担でお願いします。また、振り込み元が判明できるよう所属・氏名等を必ずお知らせ下さい。

【申込様式】

関東支部地方講習会および支部研修会

所属機関名 _____
所在地 _____
電話番号 _____
FAX番号 _____
連絡者名 _____

所 属	氏 名	昼食の有無	会員 非会員の別	参加 費用	CPD
計					

7. 問合せ先 〒320 8501

栃木県宇都宮市埴田1 1 20

栃木県農政部農地整備課 担当 川嶋 一将

☎028 623 2360 FAX 028 623 2378

第45回材料施工研究部会シンポジウムの開催について（第2報）

材料施工研究部会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 主 催 農業農村工学会材料施工研究部会

2. テーマ 「材料施工分野におけるGIS利用の現状と展望」

3. 講 師 農林水産省・研究機関・大学・自治体・民間の研究者および技術者

4. 期 日 2008年2月1日（金） 9:50～17:00

5. 会 場 高知県立県民文化ホール グリーンホール

〒780 0870 高知市本町4丁目3-30

<http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~hall/>

6. 参加費 4,000円 当日、受付にて徴収させていただきます。

7. 申 込 以下の項目をご記入の上、FAXもしくはE-mailに

てお申し込み下さい。その際、標題欄には「材料施工研究会シンポジウムへの参加申込」と明記して下さい。参加者氏名 所属機関名 所在地
TEL, FAX, E-mail アドレス 弁当(代金
¥1,000)予約注文希望の有・無

8. 申込先 〒783 8502 南国市物部乙 200
高知大学農学部気付 材料施工研究会事務局

申込受付担当：松本伸介，佐藤周之
TEL&FAX：088 - 864 - 5150
E-mail：syu@kochi-u.ac.jp

9. 申込締切 2008年1月18日(金)
10. 宿泊 各自で手配して下さいますようお願い致します。
11. 問合せ先 申込先と同じです。
12. その他 詳細は、学会誌次号に掲載予定です。

平成 19 年度京都支部地方講習会・支部研修会の開催について(第 1 報)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



平成 19 年度京都支部講習会・研修会を下記のとおり平成 20 年 2 月 14 日(木), 15 日(金)の 2 日間にわたり開催します。

記

1. 日時

- (1) 地方講習会：平成 20 年 2 月 14 日(木) 13:30~17:00
(2) 支部研修会：平成 20 年 2 月 15 日(金) 10:00~16:00

2. 内容

支部研修会では、農業水利施設のストックマネジメントに関する講演を予定しています。

3. 場所

中電ホール
〒461 0006 名古屋市東区東新町 1 番地
TEL&FAX：052 951 6908

4. 問合せ先

東海農政局整備部設計課 藤井，初川，筒井
☎052 223 4634 FAX 052 219 2667
E-mail：takanori_tsutsui@tokai.maff.go.jp

第 57 回理論応用力学講演会の開催について

1. 主催 日本学術会議 機械工学委員会・土木工学・建築学
委員会合同 IUTAM 分科会

2. 共催 農業農村工学会他 20 学会

3. 開催日 2008 年 6 月 10 日(火)~12 日(木)

4. 会場 日本学術会議(東京都港区六本木 7 22 34)

5. 趣旨

「理論応用力学講演会」は力学に関する最も権威ある世界の組織 IUTAM の開催する国際会議の国内版として開催されてきました。力学が細分化する中で、各々の分野の先端的研究を集めて、幅広い力学研究の動向を確かめ合うことが本講演会の目的です。本年度も、多くの力学の共通語を中心としたオーガナイズドセッションとパネルディスカッションを組み、ご要望にお応えしたいと存じます。皆様の多数のご参加をお待ちしております。

6. ホームページ <http://www.jiban.or.jp/nctam/>

7. 講演申込

オーガナイズドセッション，一般セッションのいずれも，J STAGE の大会演題登録システム(本講演会ホームページからリンク)を用いてお申し込み下さい。締切は 2008 年 2 月 21 日(木)とし，その後はシステムを停止しますのでご注意ください。なお，講演発表は，同一のオーガナイズドセッション内では原則として 1 人 1 回に限ります。

8. 講演論文集原稿

審査の結果，採択された講演については，A4 判 2 ページの PDF

ファイルを J STAGE の大会演題登録システム(本講演会ホームページからリンク)を用いて提出いただきます。締切は 2008 年 4 月 17 日(木)とし，その後はシステムを停止しますのでご注意ください。なお，講演 1 件につき整理費 2,000 円を申し受けます。整理費の支払方法は，採択通知時にご案内します。

9. 英文論文

著者の希望により発表論文をあらためて英文で投稿されると，査読による審査を経て後日発行する英文 Proceedings に収録されます。寄稿申込みは，メールと郵送によって受け付けます。英文論文寄稿料として 10,000 円を申し受けます。寄稿申込み期日は 2008 年 6 月 27 日(金)まで，査読用原稿受付期日は 2008 年 7 月 25 日(金)です。詳細につきましては，本講演会ホームページにてご案内いたします。なお，英文論文集発刊は 2009 年 3 月を予定しており，英文論文は J STAGE にも掲載されます。

10. 問合せ先

実行委員会 講演担当幹事 中村恭志(東工大)
☎045 924 5548 FAX 045 924 5549
E-mail：nctam@jiban.or.jp

11. 幹事学会事務局

(社)地盤工学会(担当：戸塚・松本)
〒112 0011 東京都文京区千石 4 38 2
☎03 3946 8677 FAX 03 3946 8678
E-mail：nctam@jiban.or.jp